

調布市立若葉小学校（2年目）

【校長】 内藤 みゆき
 【児童数】 903名
 【学級数】 27学級



次の取組へ

【課題・改善】

4月と12月に運動・生活・食に関するアンケートを実施した。

○運動

・「友達と協力すること」が大切だと考えている児童は多いが、アドバイスをしたり教えてもらったりすることが大切だという意識へはつながっていない。

○生活

・学んだことが大切という数値は上がっているが、実際に行動し習慣化していくには課題が残る。

○食

・「三角食べ」「決まった時刻に食べる」などの数値が低く、良さに対する理解に課題が残る。

目標・「運動(からだを動かす遊びを含む)やスポーツは大切ですか」(肯定的回答 90%以上)
 ・「運動(からだを動かす遊びを含む)やスポーツは好きですか」(肯定的回答 90%以上)

【成果】

4月と12月に運動・生活・食に関するアンケートを実施した。

○運動

・「できなくてもあきらめない」という質問に対する肯定的回答が70%以上を達成。

○生活

・「グリーンタイムを増やすこと」という質問に対する肯定的回答が、1回目のアンケートでは50%以下だったのに対し、2回目のアンケートでは60%以上に数値が大きくアップした。

○食

・「よく噛む」「バランス良く食べる」「感謝する」という質問に対する肯定的回答が、それぞれ10%以上数値がアップした。

【実態・課題】

- 児童数増加に伴うプレハブ校舎の増築により運動敷地面積が不足し、授業及び休み時間の運動機会や時間が減少している。
- ・休み時間の工夫や隣接する中学校との連携により運動施設・機会・時間の確保を実現していく。
- また、外部講師による専門性の高い授業を実施することで、児童の運動の質を向上させるとともに教員の体育科学習に関する指導力向上を図る。
- 運動や健康に対する興味・関心が低い。
- ・体育に限らず、生活・食に関する授業も全学級で実施し、児童自身の健康に関する興味・関心を高めていく。

【取組】

- 全学年、外部講師による運動授業の実施
 - ・各学年で外部講師を招へいた体育授業を実施する。今年度は走り方・陸上教室等を実施する。
- 生活実態調査の実施及び活用
 - ・各学年、9月～11月にかけて10日間の健康観察カードの記入と歩数計などを活用した身体活動量の測定を実施する。その後、結果を基に生活習慣の改善を目指す授業を計画し、全学級で実施する。
- 「食育の視点」を明確にした指導の実施
 - ・文部科学省から示されている「食育の視点」による指導を各学年で実施する。児童の実態に応じ、給食ミニ指導、各教科、学級活動等で計画的な指導を行い、自己の食習慣について振り返らせ、食について考えさせる。

【取組】

○外部講師による運動授業の実施

各学年で外部講師を招聘した体育授業を実施する。今年度は、プロスポーツ選手に陸上教室を行っていただいた。

速く走るためのポイントから、細かな技術的な部分まで丁寧に教えてもらうことで、45分という短い時間の中でも、リズムカルに走ることができ、走ることが楽しいと思える児童が増えた。

自身の疑問に丁寧に答えてもらえる時間もあり、走ることへの興味関心が高まる時間となった。



プロスポーツ選手による6年生陸上教室

○生活実態調査の取組の実施及び活用



わかばっ子元気アップカードを活用した授業

自身の健康について知る、興味をもつことができるよう、全学年で生活実態調査を10日間行っている。また、1～3年生は、歩数調査、4・6年生は、歩数調査と受光量調査、5年生はそれに加え睡眠の質を調査するメラトニン調査などの身体活動量の調査にも併せて取り組んでいる。

調査した結果を「わかばっ子元気アップカード」と称した健康観察カードに記入する。そのカードをもとに各学年で授業を実施し、自身の生活習慣や健康を見直す時間を設定した。

○「食育の視点」を明確にした指導の実施

文部科学省から示されている「食育の視点」を大切にしながら、各学年で給食ミニ指導や学級活動等で計画的な指導を行った。児童が楽しく授業に参加できるよう、料理カードを活用し献立を考えるなどの工夫を行った。

他にも和食の日にちなんだ取組や栄養士による給食放送、食に関するクイズの掲示、産地の紹介など、児童が様々な点から食に興味をもてるようにした。



料理カードを活用し、理想的な献立を考える授業